

環境に配慮した設備

ニッケグループは、化学物質や汚水の排出による環境汚染防止、地球温暖化の原因となるCO₂の排出削減のために環境に配慮した設備の導入を進めています。

印南工場 コージェネレーションシステムの稼働により、原油換算210KL(印南工場全エネルギー3.2%)を削減

印南工場ではニッケグループ初となるコージェネレーションシステムが2016年度より本格稼働し、当初の設備導入計画通りに発電および蒸気・温水の回収利用をすることができ、原油換算で210KL/年(印南工場全エネルギー3.2%)の総合エネルギーを削減することができました。

コージェネレーションシステム導入時には、周囲の生活環境

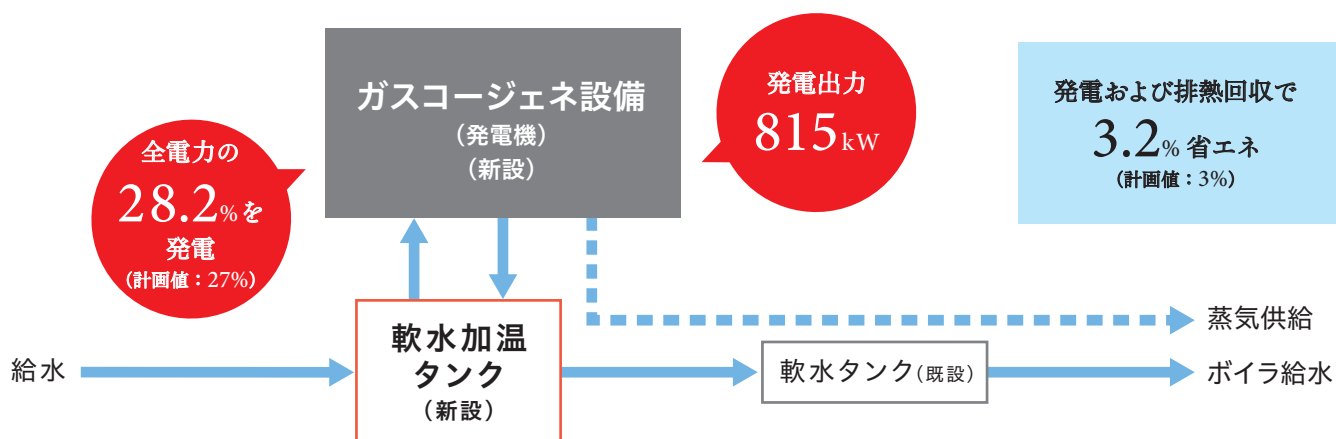
ガスコージェネレーションシステム

保全にも配慮し防音壁を自主設置しており、設備稼働後も周囲からの苦情は発生しておりません。

今後もニッケグループでは、新たな省エネ設備を検討し積極的に導入を進めていきます。



コージェネレーションシステム(本体)



環境に配慮した商品

ニッケグループは、人と地球にやさしい素材であるウールを主原料としたさまざまな商品を製造・販売するほか、環境に配慮した素材の開発、再生繊維の使用、衣料品リサイクルの推進などに取り組んでいます。

アンビック(株) リサイクルカーボン繊維を使用した不織布

レーザー遮光カーテンの基材

近年カーボン繊維は航空機を主とし使用量が増加しており、今後もさらに増加する傾向にあります。現在カーボン繊維を使用した織物の破材や、使用後のカーボン繊維またはその複合物の処理は埋め立てにより処分されています。これは、カーボン繊維がポリエステル繊維のように溶解しないこと、焼却には大量の熱源を要することを理由としています。このようなことから将来的に廃材が増えることは明確で、どこかのタイミングで処分方法が問題視される時期が来るといわれています。

今回紹介するものは、リサイクルカーボン繊維100%で構成されたレーザー遮光カーテンの基材です。カーボン繊維織物の

破材(耳の部分や打ち抜き後の破材)のカーボン繊維を使用したカーボン100%不織布となります。

アンビック(株)では、カーボン繊維織物の破材やカーボン繊維複合(例:CFRP)から回収したリサイクルカーボン繊維を使用した不織布化に成功し、顧客への提供を開始しています。このように、廃棄物の有効利用をした商品を設計し顧客へ提供することで廃棄物の削減、環境保全に貢献しています。



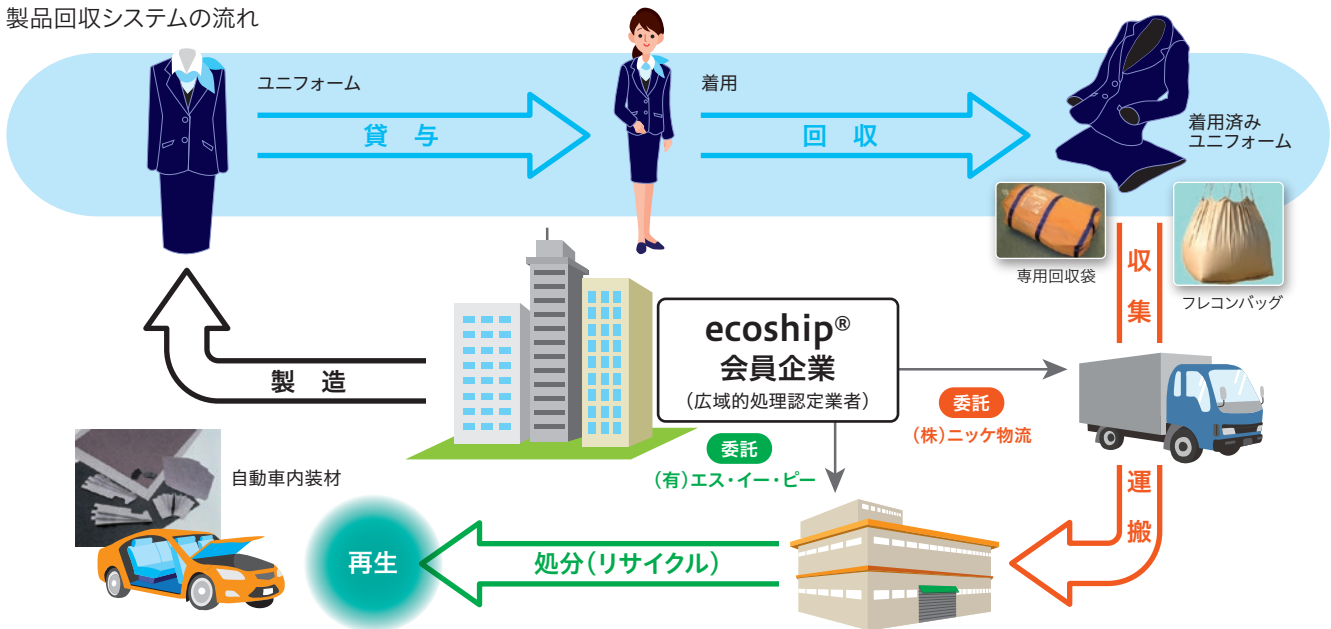
リサイクルカーボン不織布

広域認定制度の認定を受けて、着用済みユニフォームをリサイクルする「エコシップ®」

2014年7月、日本毛織(株)、(株)ナカヒロ、アカツキ商事(株)、佐藤産業(株)のニッケグループ4社は、環境省の広域認定制度の認定を取得し、9月に「エコシップ(ecoship)®」を設立しました。

認定を受けたecoship®会員企業4社が製造し、産業廃棄物となった着用済みユニフォームの回収・リサイクルに努め、廃棄物の削減と資源の有効活用を推進していきます。

製品回収システムの流れ



再生繊維を用いた「エコロジア企画®」

ニッケと帝人(株)、日清紡績(株)(現日清紡ホールディングス(株))の3社は、1997年に使用済みPETボトルを繊維に再生し使用する「エコロジア企画®」を立ち上げました。

ニッケグループでは、再生されたポリエステル繊維とウールを混紡し、ユニフォームなどの商品へ加工して、再び社会へ送り出しています。

エコロジア企画®の仕組み



「エコネットワーク®」ウールリサイクルシステム

素材のリサイクルによって、地球環境への負荷を減らすため、1998年にウールリサイクルシステム「エコネットワーク®」を構築しました。

「エコネットワーク®」の回収商品は、ウール100%と、ウールと他繊維の複合素材による衣料製品を対象としています。それらは、主に自動車装材としてリサイクルされています。